

株式情報/会社情報 (2019年10月31日現在)

■株式の状況

発行可能株式総数	200,000,000株
発行済株式の総数	133,184,612株 (自己株式 7,444,540株を含む)
株主数	10,260名

■株式分布状況



■会社概要

会社名：クミアイ化学工業株式会社  
 設立年月日：1949年6月20日  
 資本金：4,534百万円  
 事業内容：殺虫剤・殺菌剤・除草剤などの農薬の製造・販売  
 有機中間体・アミン硬化剤等の化成品の製造・販売  
 従業員数：1,676名(連結) (2019年10月31日現在)  
 本社所在地：〒110-8782 東京都台東区池之端一丁目4番26号

■大株主

株主名	当社への出資状況 持株数(千株) 持株比率(%)
全国農業協同組合連合会	26,527 21.09
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	8,957 7.12
CGML PB CLIENT ACCOUNT / COLLATERAL	8,611 6.84
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	6,309 5.01
農林中央金庫	6,117 4.86
共栄火災海上保険株式会社	4,480 3.56
静岡県経済農業協同組合連合会	2,770 2.20
第一生命保険株式会社	2,080 1.65
日本曹達株式会社	1,928 1.53
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	1,655 1.31

(注) 1. 持株数は千株未満を切捨てて表示しております。  
 2. 当社は自己株式7,444,540株を保有しておりますが上記の大株主から除いております。  
 3. 持株比率は、自己株式(7,444,540株)を控除して計算しております。

株式メモ

事業年度：11月1日から翌年10月31日まで  
 定時株主総会：毎年1月中  
 株主名簿管理人：東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
 特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社  
 同連絡先(郵送先)：〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号  
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
 基準日：定時株主総会については10月31日、その他必要があるときは、あらかじめ公告する一定の日  
 公告の方法：電子公告により行う公告掲載URL  
<http://www.kumiai-chem.co.jp/>  
 (但し、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときには、日本経済新聞に公告いたします。)

株式に関するお手続き等について

当社株式のお手続き窓口とお問合せ先は次のとおりです。

- お手続き窓口及びお問合せ先
- まだ受け取ってられない配当金の受領に関するお手続き及びそのご案内
  - 特別口座に関する振替請求、単元未満株式の買取請求・買増請求、配当金の受領方法の指定、住所等の変更の各お手続き
  - 株主名簿にご登録の配当金受取方法に関するご案内
  - 株主様宛郵便物の発送と返戻に関するご案内
  - 特別口座に関する各お手続き及びそのご案内

お手続き窓口 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店の窓口  
 お問合せ先 三菱UFJ信託銀行株式会社  
 各種お問合せ 0120-232-711

インターネットによるダウンロード <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

- お取引の証券会社等に開設されている振替口座に預託されている当社株式に関する単元未満株式買取請求・買増請求、配当金の受領方法の指定、住所等の変更の各お手続き
- 上記の各お手続きに関するご案内

お取引口座を開設されている証券会社等にてお手続き又は、お問合せをお願いします。

IR情報を当社ホームページでご覧になれます。

ホームページアドレスは次のとおりです。  
<http://www.kumiai-chem.co.jp/>



# Letter <sup>7ミカ</sup> vol.04

第71期 株主通信 2018年11月1日 → 2019年10月31日

熱き思いでビジョンを実現  
 輝く未来は、われらが拓く 第72期標語



Interview with the president  
 1,000億円の大台達成から、その先の輝く未来へ。

Special 1  
 輝く未来への成長ドライバー、アクシブ。

Special 2  
 グループの総合力で、輝く未来へ。



代表取締役 社長

小池好智

Interview with the president

1,000億円の  
大台達成から、  
その先の輝く未来へ。

### — 71期を振り返っていかがでしたか？

71期は中期経営計画2年目にあたります。アクシーブの売上増や、エフィーダ剤、ピラキサルト剤の投入など農薬事業の売上は右肩上がりであり、Iharanikkei Chemical (Thailand) Co., Ltd.の工場が本格稼働するなどグループ全体での化成系事業も好調でした。高い目標でしたが、ほぼ計画通りに推移し、クミアイ化学グループとして初めて売上高1,000億円を達成しました。71期の重要課題として取り組んだ「原価の削減、販管費を含むすべてのコストの低減」については、電力料金や賃料など、一つひとつの要素を検討し、削減を図りました。しかし製造原価の部分は、中国の化学工場で発生した事故が影響した原料高騰などがあり、なかなか思い切った削減には至らなかったという状況です。

### — 中期経営計画最終年度となる来期の課題は？

やはり「原価の削減」が少し遅れていますので、引き続き2017年の経営統合によるプロセス一貫体制の強化や、シナジー効果の発揮で原価の削減に努め、さらなる利益改善を進めてまいります。また、競争の激しい水稲用除草剤分野でのエフィーダ剤のシェア拡大、インドでのジェネリック品対策として合弁会社PI Kumiai Private Ltd.を本格稼働させ、ノミニー剤のブランド力を活かした拡大戦略を推進することも課題です。化成系分野ではIharanikkei Chemical (Thailand) Co., Ltd.の2期投資も控えています。来期も高い目標を掲げていますので、従業員一丸となって取り組んでいく必要があります。さらに、来期だけでなくその先を見据えた活動を行ってまいります。

### — 企業が「成長」を続けるために必要なことは なんだと思いますか？

企業というのは、永続的に成長を続けなければなりません。その元は「人財」であると私は考えます。企業は中長期的なビジョンを示しますが、そのビジョンを従業員一人ひとりの目標とやりがいにつなげていくことが大切です。当社で毎期、設定している標語もその一つです。企業が方向性を示し、全従業員から募集することによって、個人がビジョンを自分なりに考え、それを自分の目標に置き換えて仕事をする道筋をつくることができます。この一人ひとりの小さな目標が組織の力となり、企業の力となり、商品の力となることで、農家の皆様のお役に立つことができ、さらには日本の農業、世界の農業の力になります。このように仕事を通して、自分が社会で役立っていると感じられる存在感や達成感を得られることが、個人のやりがいと次の目標、さらには幸福感につながります。この個人と企業、社会の循環をスムーズに永続的に続けていくこと。そのためには利益の拡大とコンプライアンスを両立するガバナンスの徹底が必要です。つまり、従業員が誇りとやりがいを持って働ける「日本一幸せな会社」であることが、企業の成長を続けるためのカギであると考えております。

### — 最重要経営資源である「人財」についての取組みは？

「日本一幸せな会社」を目指す企業として、従業員の幸福度調査を行いました。製造業の平均よりも良い結果が出てたいへん安心しましたが、この調査を通じて、もっと従業員一人ひとりの状況やそれぞれの思いに寄り添える会社にしていきたいと思っております。具体的には、従来から実施していた面接制度を見直し、一人ひとりの個別の状況、キャリアプランや思いを聞いたうえで、できるだけ個人の自己実現を後押しできるようにしてまいります。

### 当期経営成績

クミアイ化学グループとして初めて連結売上高「1,000億円」を超え、「1,034億円」に。営業利益は前年比36.9%増。



# 輝く未来への 成長ドライバー、アクシーブ。

## Q アクシーブとは？

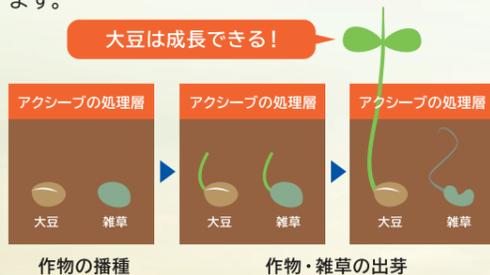
**A** クミアイ化学が開発した、農薬の有効成分「ピロキサスルホン」のブランドネームです。

**対象作物** 大豆、トウモロコシ、コムギを中心とした畑作物



**使用用途** 畑作用土壌処理除草剤  
雑草発芽前の土に散布します。

アクシーブを撒くと土壌の表面にアクシーブの層ができます。大豆や雑草の芽がアクシーブに触れると、雑草だけが枯れ、大豆は成長を続けます。



※イラストはイメージです

## Q アクシーブはなぜ売れる？

**A** 3つの強みで売られています！

### 強み1 グリホサート抵抗性雑草への高い防除効果

グリホサート抵抗性雑草とは？

現在、北米・南米を中心とした大豆・トウモロコシ栽培では、多くの地域で、すべての植物を枯らす特性を持つ除草剤グリホサートと、遺伝子を組み換えてグリホサートが効かなくなった作物（GMO作物）がセットで用いられています。この栽培体系は1990年代から始まりましたが、2010年代になると、グリホサートの長年の使用により、グリホサートが効かない雑草が問題となり始めました。

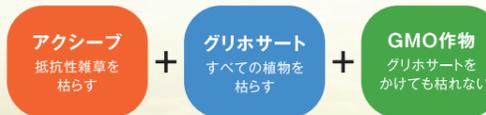
#### セットで栽培！！



### 高い防除効果を持つアクシーブ

このグリホサート抵抗性雑草を防除できる除草剤が、アクシーブです。アクシーブはグリホサート抵抗性雑草に高い効果を示すため、抵抗性雑草の問題を抱えている地域から高い需要があります。

#### 3セットで栽培！！



### 強み2 長期残効性

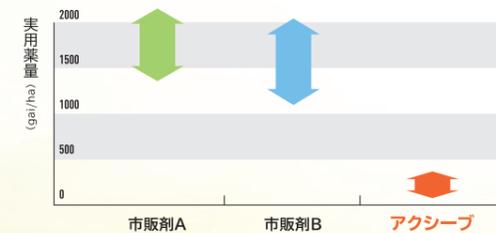
競合する除草剤に比べて、アクシーブは2週間ほど長く効果が持続し、雑草が作物へ与える悪影響を低減します。作物の収量や収穫効率の向上が期待できるという点が、アクシーブが選ばれる理由の一つとなっています。



### 強み3 低薬量で環境に優しい

アクシーブは既存剤に比べて10分の1という非常に少ない量で効果を示します。薬剤散布の労力低減が図れるだけでなく、環境への負荷も低く抑えることができます。

#### ■既存剤の約1/10量の低薬量で高い効果



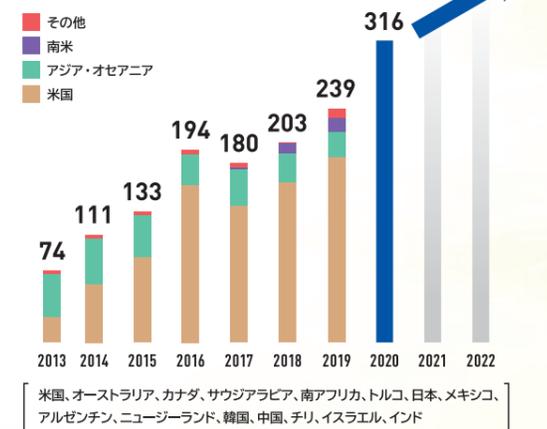
## Q アクシーブの成長可能性は？

**A** 世界で登録国を拡大。さらなる成長を目指しています。

### 成長のポイント1 海外展開

2011年にアクシーブの販売を開始し、2018年には年間売上が200億円を超えました。グリホサート抵抗性雑草の問題が深刻化している米国、アルゼンチンでの需要が伸びており、2019年以降はインドでの販売を開始し、2020年にはブラジルでの販売開始も予定しています。さらなるグローバル展開を進めることで、世界中の農家の方々の負担軽減を図り、世界の食料問題解決に取り組むことが、アクシーブの成長につながります。

#### ■連結売上高推移及び上市国



### 成長のポイント2 新規混合剤

これまでに米国で9剤、アルゼンチンで3剤の製品を販売していますが、今後も継続的な新規混合剤の投入を予定しており、拡販を進めます。その他の国についても複数の国々で開発を継続しており、順次登録を取得し、販売国を拡大していく予定です。

#### ■アクシーブ剤の開発見通し

登録国（製品数）	2019	2020	2021	2022
米国（9剤）		新規混合剤	新規混合剤	継続的な 新製品開発
アルゼンチン（3剤）	新規混合剤		新規混合剤	
インド	登録取得			
ブラジル		登録取得		
その他登録国	中国、チリ、イスラエル	継続して開発国を拡大		

# グループの総合力で、 輝く未来へ。



## 農薬事業

### 水稲用一発処理除草剤の シェア奪回

これからの水稲用除草剤の柱となるエフィーダ混合剤として2019年から販売を開始したエンペラー、ペルーガ、アバンティの3剤に加え、2020年はベツカク、プライオリティ、ツイゲキの発売を予定しております。競争の激しい国内の水稲用一発処理除草剤分野に、広葉雑草やカヤツリグサ科雑草などの幅広い草種を防除でき、問題となっている抵抗性雑草にも高い効果を示す、エフィーダ剤を投入し拡販を図ります。また、事業買収したベンスルフロンメチルを含有する主力剤トップガンをはじめ、バンケイ、ガンガンなどの既存剤の維持拡販を図り、シェア奪回に向けて取り組んでまいります。



### PI Kumiai Private Ltd. の始動

ジェネリック農薬の台頭によって近年水稲用除草剤ノミニー剤の売上は減少傾向にありました。そこで関税や輸送コストをカットすることによってジェネリックとの競争力を高めるため、2017年にノミニー剤最大の市場であるインドで現地のPI社と合併会社、PI Kumiai Private Ltd. を設立。現地製造・販売の準備を進めてまいりました。また、インドにはまだ除草剤を使用していない地域が2700万ヘクタールもあるといわれています。2019年9月に製造・販売の準備が整い、大きなポテンシャルを有するインドで、2020年度から本格販売を実施してまいります。

## M & A

### Corteva社から ベンスルフロンメチル事業を買収

2019年10月4日に、Corteva Agriscience から、中国を除くアジア太平洋地域におけるベンスルフロンメチル事業を買収いたしました。ベンスルフロンメチルは広葉やカヤツリグサ科雑草に広く効果を示し、移植・直播いづれにも適用可能な水稲用除草剤として日本・インド等で広く使用されています。クミアイ化学はこのベンスルフロンメチルを含む製品を日本で最初に開発した一社であり、トップガン、ウルフエースなどのブランド名で製品を販売しております。現在、国内では当社以外にも複数社でベンスルフロンメチルを含有する製品が販売されており競合関係にありましたが、これからは当社が有効成分を販売するという、競合に対し優位な状況を確保いたしました。また、自社有効成分になったことで、自社既存剤の原価低減が可能となります。さらには、ベンスルフロンメチルを使用した水稲用除草剤の幅広い製品開発や商品ラインナップの拡大も可能となり、ベンスルフロンメチル事業の総合的な事業拡大を目指します。



### 理研グリーン完全子会社化

クミアイ化学は、2019年8月末日を効力発生日として理研グリーンと株式交換を行い、同社を完全子会社といたしました。理研グリーンは8月末の効力発生日に先立ち、8月29日、JASDAQ市場での上場を廃止しております。理研グリーンはこれまでクミアイ化学グループにおいて非農耕地向け農業販売などの分野で重要な役割を担ってきました。今後は、理研グリーンの事業特性や運営・体制の優れた点を十分に活かしつつ相互の連携をより強化することで迅速な意思決定を図ります。また、クミアイ化学グループ全体のガバナンス・コンプライアンス体制を強化するとともに、グループ全体の企業価値向上に努めてまいります。



イハラ建成工業 大井川工場

## 化成品事業

### 幅広いニーズに応じて、エコ素材 EPS(発泡スチロール)を安定供給する、 イハラ建成工業株式会社

クミアイ化学グループの第二の柱として拡大を図っている化成品事業。イハラ建成工業では、建設業だけにとどまらず、生活に密着した発泡スチロールの製造も行っています。農水産物の箱や電化製品の梱包材、家電製品パーツ、建築用断熱材、土木・園芸用途まで幅広く製品を提供。国内4カ所の工場で24時間稼働を実施し、優れた生産性で需要に応じています。また、コンピュータ管理の最新鋭の生産システムと厳密な測定・検査を実施する品質管理を導入し、それぞれの用途に応じた耐久性や曲げ強度など高度な要求性能にも応えています。さらに、ISO14001を取得するなど環境への配慮を常に考え、使用済み製品のリサイクルに取り組んでいます。発泡スチロールの原料は直径1mm程度のポリスチレンの粒であり、原料ビーズを加熱し約50倍に膨らませてつくるため、製品全体の98%が空気できています。石油製品の原料ビーズはわずか2%しか使われていないため、もともと環境への負荷が少ない製品といえます。しかし海洋プラスチックの環境問題が大きく取りざたされている現在、発泡スチロール業界全体で生物分解性の素材開発が行われており、さらなる環境への配慮が進められています。「環境に優しい素材で暮らしを包み込む」をコンセプトに、イハラ建成工業は、発泡スチロールの新たな可能性を追求してまいります。



鮮魚箱



家電・OA機器の緩衝材



EPS建材



原料ビーズ